

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	脊振村立脊振小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	12
児童数	20	19	21	27	18	13	1	119	

研究の概要

## 1. 研究主題

生き生きと学び、確かな学力が身につく学習指導  
～学力の調和的発達を目指して～

## 2. 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

全学年算数

昨年度の研究で、算数の学力は高まりつつある。NRT診断的学力検査からもそのことが証明できている。しかし、まだまだ個々の能力差や個人内においても4領域に対する能力差が見られる。また、計算力は上がっているが、新しいいきまりを見つけ出すための考える力や全体で練り合っているようなコミュニケーションの力も不十分である。そこで、研究の2年目にあたる今年度は算数科の基礎・基本を重視した算数的活動を授業展開に据え、その中で子どもがコミュニケーションを図っていくための手立てを明らかにしていくことを研究の視点とした。

## (2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 生き生きと学び、確かな学力が身につく学習指導（導入期） - 学力の調和的発達を目指して -</p> <p>仮説 子どもの興味・関心を大切にしながら導入を取り入れた指導と評価を行えば単元を通じて学習意欲を持たせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの身近な生活の中から導入の素材を探す。</li> <li>・いろいろな教科書を参考にし、クラスの実態に合わせて教科書の内容を変えたり、ふくらませたりする。</li> <li>・子どもの日記や教師作成のストーリーから導入の素材を探す。</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 生き生きと学び、確かな学力が身につく学習指導（展開期） - 学力の調和的発達を目指して -</p> <p>仮説 練り合いの場を工夫したり教師の発問等を構造化したりすることで、子どものコミュニケーションの力を伸ばし、算数科の基礎・基本の定着の一助になるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎表をもとに当該単元の基礎を明確にして単元計画を立てる。</li> <li>・各学年部における身に付けさせたいコミュニケーション能力を明確にして、日々の授業に臨む。</li> </ul>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、効果的なコミュニケーションの場を設定する。</li> <li>・コミュニケーションの場を作る発問などを研究する。</li> <li>・算数科におけるコミュニケーション能力の一つである「表記する力」をノート指導と併せて指導していく。</li> </ul>
--	--

平成16年度	<p>テーマ 生き生きと学び、確かな学力が身につく学習指導（終末期） - 学力の調和的発達を目指して -</p> <p>仮説 きめ細かな指導と評価で「できる」「わかる」「生かせる」算数を実感させることで、これからの算数の学習に関心をもたせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・補充・深化・発展学習で、一人一人に応じた指導と評価を行う。 （習熟度別などの少人数指導の確立） ・算数の学習が「生かせる」場を設定していく。</p>
--------	---

### (3) 研究推進体制

<p>研究推進委員会を校長、教頭、研究主任、算数主任で組織する。 授業研究部を低学年部会、中学年部部会、高学年部部会に分ける。 専門部を学習指導部、基礎・基本部、調査・環境部に分ける。 （専門部の主な研究内容は、以下の通りとする）</p>	
学習指導部	<p>学習ノート指導（形式作成 低・中・高別） 発表の仕方・グループでの話し合いモデル作成 発問・板書計画の構造化について 評価に在り方に関する研究</p>
基礎・基本部	<p>基礎・基本の概念規定 基礎表・基本表の意味と形式作成 基礎学力向上のための手立てとその集計方法</p>
調査・環境部	<p>実態調査による昨年度からの変容と問題点の明確化 （NRT、CRT、各種アンケート調査） 算数クイズの問題の作成（低・中・高別）と正解者への賞状準備 全校統一テスト作成（めあて達成者に対する賞状準備）</p>

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

<p>子どもに身に付けさせたいコミュニケーション能力を各学年部ごとに設定し授業に取り組んだ。そのため、聞く・話すなどの能力や友だちの考えのよさを見つける力が伸びた。</p> <p>式と言葉、絵図の関係を双方向に見る力を養わせることで、ノートに自分の考えを表記したり、全体やグループの場で説明したりする力がついてきた。</p> <p>コミュニケーションの場や課題提示・教師の発問などを工夫することで、練り合いの場を作ることができた。</p> <p>基礎表をもとに、指導のポイントや子どものつまずき解決の工夫ができた。また、教師の指導改善にも役立った。</p> <p>評価は、評価のための評価ではなく、指導のための評価を心がけた。まず、各授業の目標（評価規準）を明確にして、望ましい子どもの姿を具体化した。次に、評価基準A・Bを行動目標的に設けることで、それぞれの子ども（A、B、Bに至っていない）のイメージをもつことができた。そのため、それぞれの子どもに応じた指導をすぐに行うことができた。</p> <p>T T指導では、導入部においては、2人の教師のやりとりで子どもに興味を喚起させた。展開期においては、習熟に応じた評価と指導を分担したり、話し合い活動を盛り上げるための発問をしたりした。</p>
--

NRT、CRTの各検査を分析することで、子どもの学力の実態を客観的に見ることができた。H14とH15のNRTの結果を見ると、各学年、各領域において確実に伸びてきている。

基礎計算の取組により、全学年、基礎計算力が向上している。

校内環境では、子どもが興味をもてそうな算数クイズを提示した。子どもたちの中にチャレンジしようとする気持ちが高まってきている。

## 2. 今後の課題

さらにきめ細かな個に応じた指導を行うための、補充・発展の在り方。  
算数で学習したことをいろいろな場面に広げていくための方策。  
学力向上のための家庭との連携（宿題、基本的な生活習慣など）。

## 学力等把握のための学校としての取組

NRT 診断的学力検査（年1回5月頃）  
CRT 目標基準準拠検査（年1回1月頃）  
算数に対する意識調査（年2回5月頃と1月頃）  
基礎計算力の伸びの調査（年に随時）

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

公開授業  
第1回公開授業 H15 6月27日（金）2年生「たし算かなひき算かな」  
第2回公開授業 H15 10月24日（金）5年生「面積」  
第3回公開授業 H15 11月21日（金）4年生「わり算（2）」  
HPに研究の概要を記載  
学習指導案集と基礎表の作成（来年度公開予定）

- ~~~~~
- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】         6学級以下                     7～12学級  
                          13～18学級                 19～24学級  
                          25学級以上
- 【指導体制】         少人数指導                     TTによる指導  
                          一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】         国語                     社会                     算数                     理科  
                          生活                     音楽                     図画工作                 家庭  
                          体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有                     無